

主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	㊦ 乙 第 号	氏 名	韓 娜
<p>主 論 文 題 目： 国境社会の変容と国境に生きる人々の日常実践 ——中国・ベトナム国境からの考察</p>			
<p>(内容の要旨)</p> <p>本論文は、中国・ベトナム国境の変容及び再編の過程において国境に生きる人々に関する民俗学的研究である。本論文では国境を、単なる領土的境界線ではなく、「政治空間」と「生活空間」の二重的性格をもつ空間と把握し、「国家権力の支配とそれに対抗するせめぎあいの場」とする。そのうえで、国境における住民の主体性を軸に分析を行う。国境を越えて生活の営みを行い、様々な社会関係を形成・維持する国境の人々が、国家の介入など、新たな状況の中でいかに柔軟に対応してきたかに注目する。つまり、人間にとっての「国境」とは何かという規範的な疑問と、国境をめぐる国家の制度が形成する実践及び人々がその制度を捉え直していく過程を検討し、国境社会の変容と再編のダイナミズムを、人々のミクロな経験とマクロな政治文化的環境の双方の二重の視点から明らかにすることが本論文の目的である。</p> <p>研究対象地の中越国境は、従来の国境発展通説のように、前近代ボーダーレスな性格を持った国家周縁の国境地域が、植民地及び独立後の国民国家によって分断され、それぞれの国家空間に編成され、さらにグローバルや地域統合の動きによって再接合されてきた地域である。国境の存在が人々の生活に直接的な影響を与えるのは、両者の独立を経た二十世紀中葉以降である。伝統的生存空間は国家の政治権力の枠組みに押し入れられるようになる。さらに、1970年代後半以降、中越紛争、国境閉鎖など人々の生活に決定的な影響を及ぼす出来事が相次いで生じた。1991年国交正常化になると、国境開放、貿易ブームに一転した。国家の介入は、生活実践の面において国境住民に直接的に影響を与えただけではなく、アイデンティティの形成においても大きなかげを落とした。しかし、国境社会にとって、国境をめぐる政治・経済制度の変容は、中越関係の一連の変動の波及である。その変動により、地域や社会の枠組みが変わっていくことがあるが、国境が人々の「生活の場」であることに変わりはない。国境住民は基本的に個人の意思で越境交易や移動を行なう。本論文では、人々の日常的越境実践は、国家による強力な介入に対して、それなりの対応を行い、せめぎあいながら能動的な働きかけや新しい形の関与を行おうとする様子をフィールドワークによって明らかにする。同時に、近代国家の発展の過程で、国家の権力は国境まで手を届くことができなかった不完全な近代国家の存在を示し、従来の国境通説を再考する視点を提供する。</p> <p>キーワード： 1. 中越国境 2. 越境 3. 日常実践 4. 国境の生活空間 5. 越境交易</p>			